

令和7年度標準学力検査 教研式NRTの検査結果について

令和7年6月12日（木）、第1学年及び第2学年を対象に実施した令和7年度標準学力検査 教研式NRTの検査結果が届きました。

本検査は、学習指導要領に準拠し、各教科の「内容」に合わせた領域で構成されており、全国の学力水準と比較して相対的に学力を把握するためのものです。本校生徒の学力を把握・分析し、今後の授業改善や生徒への教育指導の充実に役立てていきます。

【第1学年】各教科の大領域別正答率（％）の比較

教科	内容	豊栄中	全国	全国比
国語	話すこと・聞くこと	68.0	61.7	110
	書くこと	56.9	58.8	97
	読むこと	60.7	59.5	102
数学	数と式	58.7	62.8	93
	図形	43.0	51.8	83
	関数	50.6	58.0	87
	データの活用	53.2	56.8	94
理科	エネルギー	68.5	64.0	107
	粒子	48.2	47.8	101
	生命	69.1	72.1	96
	地球	58.2	57.7	101

【第2学年】各教科の大領域別正答率（％）の比較

教科	内容	豊栄中	全国	全国比
国語	話すこと・聞くこと	67.1	61.9	108
	書くこと	63.9	60.6	105
	読むこと	54.6	49.7	110
数学	数と式	64.6	55.6	116
	図形	55.1	51.7	107
	関数	56.3	46.7	121
	データの活用	53.3	55.0	97
理科	身近な物理現象	65.9	60.2	109
	身の回りの物質	64.3	62.5	103
	いろいろな生物とその共通点	69.4	63.1	110
	大地の成り立ちと変化	52.6	53.7	98

【第1学年】

教科	結果の分析
国語	大領域の、話すこと・聞くことは全国平均を上回っており満足できる。また、読むことは全国平均と同程度であり概ね満足できる。中領域別に細かく見ると、話すこと・聞くことのうち「情報を選び構成を考えて話す」が全国平均を5ポイント、書くことのうち「目的に応じて工夫して書く」「文章を整え感想や意見を伝え合う」が全国平均を5ポイント、「送り仮名を含む漢字の書き」が全国平均を13ポイント、読むことのうち「漢字の読み・熟語の構成等」が全国平均を7ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。
数学	大領域の、全ての内容において全国平均を下回っており今後の課題である。中領域別に細かく見ると、数と式のうち「計算」が全国平均を5ポイント、「式」が全国平均を15ポイント、図形のうち「平面図形」「立体図形」が全国平均を17ポイント、関数のうち「比、百分率、速さ」が全国平均を14ポイント、「比例と反比例」が全国平均を11ポイント、データの活用のうち「データの考察」が全国平均を10ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。
理科	大領域の、エネルギーは全国平均を上回っており満足できる。また、粒子、地球はいずれも全国平均と同程度であり概ね満足できる。しかし、大領域の、生命については全国平均を下回っており今後の課題である。中領域別に細かく見ると、粒子のうち「物の溶け方と水溶液の性質」が全国平均を10ポイント、生命のうち「人の体のつくりと働き」が全国平均を15ポイント、地球のうち「流水の働きと土地のつくり」が全国平均を4ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。

【第2学年】

教科	結果の分析
国語	大領域の、全ての内容において全国平均を上回っており満足できる。中領域別に細かく見ると、話すこと・聞くことについては、全ての内容が全国平均を大きく上回っている。また、書くことの「情報を選び構成を考えて書く」「目的に応じて工夫して書く」、読むことの「主題や構成を読み取る」「要点をとらえ内容を解釈する」「古典・漢字の読み・品詞の理解等」も全国平均を大きく上回っている。しかし、書くことのうち「文章を整え感想や意見を伝え合う」が全国平均を4ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。
数学	大領域の、数と式、図形、関数は全国平均を上回っており満足できる。しかし、データの活用は全国平均を下回っており今後の課題である。中領域別に細かく見ると、数と式においては、全ての内容が全国平均を大きく上回っている。また、図形の「平面図形」、関数の「比例と反比例」、データ活用の「ヒストグラムや相対度数」も全国平均を大きく上回っている。しかし、データの活用のうち「多数回の試行による確率」が全国平均を17ポイント下回っており、今後の課題である。
理科	大領域の、身近な物理現象、いろいろな生命とその共通点は全国平均を上回っており満足できる。また、身の回りの物質は全国平均と同程度であり概ね満足できる。しかし、大領域の、大地の成り立ちと変化は全国平均を下回っており今後の課題である。中領域別に細かく見ると、身近な物理現象のうち「光と音」、身の回りの物質のうち「いろいろな物質とその性質」、いろいろな生物とその共通点については、全ての内容が全国平均を大きく上回っている。しかし、身の回りの物質のうち「状態変化」が全国平均を2ポイント、大地の成り立ちと変化のうち「地震」が全国平均を7ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。